



### 【2017年8月28日～9月1日】

## 1. 先週の市場動向

### 【先週の市場の振り返り】

<株式>	先々週末 2017/8/25	先週末 2017/9/1	前週比
NYダウ (米国)	21,813.67	21,987.56	0.80%
日経平均株価 (日本)	19,452.61	19,691.47	1.23%
DAX指数 (ドイツ)	12,167.94	12,142.64	▲0.21%
FTSE指数 (英国)	7,401.46	7,438.50	0.50%
上海総合指数 (中国)	3,331.52	3,367.12	1.07%
香港ハンセン指数 (中国)	27,848.16	27,953.16	0.38%
ASX指数 (豪州)	5,743.86	5,724.59	▲0.34%
<リート>	先々週末	先週末	前週比
S&Pグローバルリート指数	181.70	182.89	0.65%
<債券> (利回り) (%)	先々週末	先週末	前週差
米国10年国債	2.166	2.166	▲0.000
日本10年国債	0.019	-0.001	▲0.020
ドイツ10年国債	0.380	0.379	▲0.001
英国10年国債	1.053	1.057	0.004
<為替>	先々週末	先週末	前週比
ドル円	109.36	110.25	0.81%
ユーロ円	130.39	130.75	0.28%
ユーロドル	1.1924	1.1860	▲0.54%
豪ドル円	86.76	87.87	1.28%
<商品>	先々週末	先週末	前週比
商品 (CRB指数)	177.83	180.95	1.75%
原油先物価格 (WTI)	47.87	47.29	▲1.21%

#### <株式>

主要国の株式市場は、概ね上昇しました。米国株式市場では、週前半は北朝鮮のミサイル発射の影響などから様子見の展開となりましたが、その後は4-6月期のGDP改定値や8月のISM製造業指数など好調な経済指標を受けて堅調に推移し、NYダウは週間で0.80%上昇しました。NASDAQ総合指数は史上最高値を更新して終了しました。欧州株式市場では、英国のFTSE指数は、米国や中国の景気指標が良好であったことから0.50%上昇しました。DAX指数は、0.21%下落しました。日経平均株価は、週前半は北朝鮮のミサイル発射の影響などから円高が進み下落しました。その後は円安や海外市場の堅調、良好な米国や中国の経済指標などを好感して週間では1.23%上昇しました。中国株式市場では、上海総合指数、香港ハンセン指数ともに上昇しました。

#### <債券>

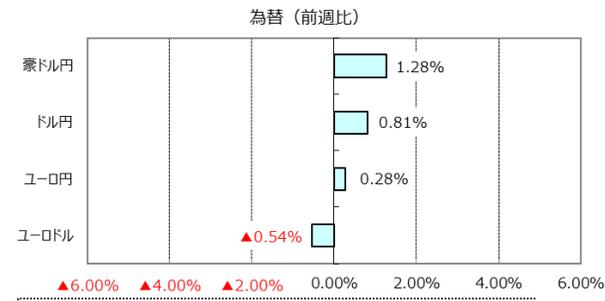
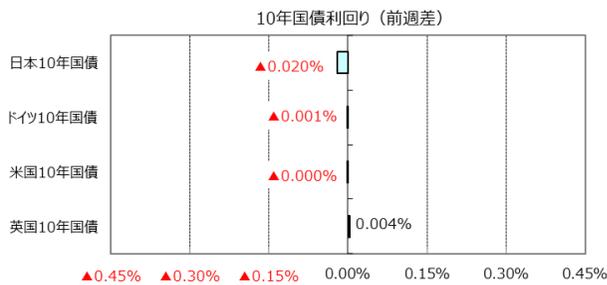
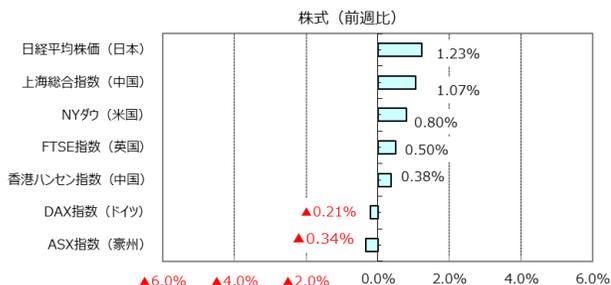
主要国の10年国債利回りは小幅な動きとなりました。米国の10年国債利回りは、北朝鮮リスクや経済指標を受けて上下しましたが、週間では横ばいとなりました。ドイツと英国の10年国債利回りは、ほぼ横ばいとなりました。日本10年国債利回りは低下しました。

#### <為替>

円相場は対ドルでは北朝鮮のミサイル発射の影響などから、一旦108円前半まで円高となりましたが、良好な米国の景気指標を受けて110台半ばまで円安となり、週間では0.81%の円安・ドル高となりました。対ユーロでは0.28%の円安・ユーロ高となりました。

#### <商品>

原油先物価格 (WTI) は、米国のハリケーンの影響で、石油精製設備が停止したことによる原油在庫の積み上がりなどを懸念して下落し、47.29ドルで引けました。



※利回りの低下は債券価格の上昇を表します。

※ユーロドルのプラス表示はユーロ高・ドル安。  
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成





【2017年8月28日～9月1日】

## 2. 先週のマーケット・デیلیー/ウィークリー

	テーマ	ポイント
8/28 (月)	先週のマーケットの振り返り	2017/8/21～8/25 マーケットの振り返り
8/29 (火)	改善が進む豪州経済 堅調な展開が見込まれる豪ドル	1. 堅調に推移する豪ドル相場、経常収支改善や日豪金利差等による
		2. 上昇に向かう資源価格、中国の需要が底入れの見通し
		3. 【 <b>経済成長率は加速へ</b> 】豪州の1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比 +1.7%にとどまりましたが、今後は資源価格の持ち直しによる資源セクターの回復（鉱業投資の復調等）が見込まれることから、今後、成長率は+3%程度まで加速する見通しです。
8/30 (水)	堅調を維持する米国の社債市場（2017年8月） 相対的に利回りの高い社債への需要は引き続き強い	1. 底堅い展開、8月は株価を上回るパフォーマンス
		2. 社債への需要は根強い、相対的に高い利回りが魅力
		3. 【 <b>今後も堅調な推移が見込まれる</b> 】インフレの抑制された環境が続くこと等を踏まえると、長期金利は当面レンジ内で推移すると考えられます。こうした環境下では、相対的に利回りや安全性が高い投資適格債への資金流入は継続すると予想されます。
☆ 8/31 (木)	アジア通貨の動向（2017年8月） 人民元、インドルピー、タイバーツなど総じて堅調	1. 人民元が1年ぶりの高値、堅調な景気、管理強化とドル安 2. ルピーは2年ぶりの高値圏、タイバーツは2年4カ月ぶりの高値 3. 【 <b>アジア通貨は堅調な展開</b> 】ドル安基調が続き、アジア通貨は総じて堅調な値動きとなっています。米国の利上げは緩やかに進むと見られ、ドル高への反転が見込みにくいなか、相対的に経済が健全なアジア通貨は今後も堅調に推移すると思われます。
☆ 9/1 (金)	中国景気の底堅さを示したPMI 景況感は改善、株価や人民元は堅調に推移しよう	1. 8月の景況感は改善、PMIは市場予想を上回る 2. 足元景気は底堅い、先行きは緩やかな減速 3. 【 <b>株価や人民元は堅調推移</b> 】景気が底堅く、企業業績の改善が期待されることから中国株式は今後も堅調に推移しそうです。ドル安地合い、底堅い中国経済、通貨当局の管理強化等から、人民元は今後もしっかりとした展開が見込まれます。

### ☆先週の市場動向に関連する代表的な「グラフ・図表」

☆8/31 アジア通貨の動向（2017年8月）  
人民元、インドルピー、タイバーツなど総じて堅調



(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆9/1 中国景気の底堅さを示したPMI  
景況感は改善、株価や人民元は堅調に推移しよう



(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆ は右の「グラフ・図表」を参照。



【2017年8月28日～9月1日】

### 3. 今週の主な注目材料

日付	米国	日本	欧州	アジア・オセアニア・その他
9/4 (月)		8月マネタリーベース	ユーロ圏9月センチックス投資家信頼感指数 ユーロ圏7月生産者物価指数	
9/5 (火)	7月製造業受注	8月日経PMIサービス業	ユーロ圏7月小売売上高 ユーロ圏8月マークイットサービス業PMI	中国8月Caixin中国サービス、総合PMI ブラジル7月鉱工業生産 ブラジル8月マークイットサービス業、総合PMI
9/6 (水)	米地区連銀経済報告 (ページブック) 7月貿易収支 8月ISM非製造業景況指数☆	7月毎月勤労統計・実質賃金総額	ユーロ圏8月マークイット圏小売業PMI 独7月製造業受注	ブラジル金融政策決定会合 ブラジル8月IBGEインフレ率IPCA
9/7 (木)		7月景気先行CI指数 7月景気一致指数 8月東京オフィス空室率	欧州中央銀行 (ECB) 理事会☆ 英8月ハリファクス住宅価格 独7月鉱工業生産	中国8月外貨準備高
9/8 (金)	7月卸売在庫	7月国際収支・経常収支、貿易収支 8月景気ウォッチャー☆ 4-6月期GDP改定値	英7月鉱工業生産、製造業生産 英7月貿易収支 独7月貿易収支	中国8月貿易収支☆
☆ 今週の注目点	今後の景気動向を見る上で、8月ISM非製造業景況指数が注目されます。	景気動向を確認する上で、8月景気ウォッチャーが注目されます。	今後の資産縮小ペース等金融政策を見る上で、欧州中央銀行 (ECB) 理事会が注目されます。	中国の今後の景気、為替動向を確認する上で、中国8月貿易収支が注目されます。

※各経済指標・イベントは予定であり、変更されることがあります。

弊社マーケットレポート 検索!!

先週の注目の「マーケット・デイリー」  
[2017年9月1日 中国景気の底堅さを示したPMI【デイリー】](#)  
[2017年8月31日 アジア通貨の動向 \(2017年8月\)【デイリー】](#)

先週の「マーケット・ウィークリー」  
[2017年8月28日 先週のマーケットの振り返り \(2017/8/21-8/25\)【ウィークリー】](#)

先月の「マーケット・マンスリー」  
[2017年8月2日 先月のマーケットの振り返り \(2017年7月\)【マンスリー】](#)

先週の注目の「マーケット・キーワード」  
[2017年8月30日 『米長期金利』が上昇しないワケ【キーワード】](#)



【2017年8月28日～9月1日】

【重要な注意事項】

【投資信託商品についてのご注意（リスク、費用）】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等（外貨建資産には為替変動もあります。）の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、投資信託は**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。

●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

◆直接ご負担いただく費用 … 申込手数料 **上限3.78% (税込)**

… 換金（解約）手数料 **上限1.08% (税込)**

… 信託財産留保額 **上限3.00%**

◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用 … 信託報酬 **上限年 3.834% (税込)**

◆その他費用 … 監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、あらかじめその上限額、計算方法を具体的に記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由によりあらかじめ具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、販売会社よりお渡しする投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面等を事前に必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

〔2017年5月31日現在〕

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。